

家庭科の学習内容構想とその具体化（第3報） 中学校における学習内容構想と年間計画

田辺 勝利*・赤松 純子**・宇高 順子*

The Learning Contents and Their Actual Instruction of Home Economics Education (Part 3) — Contents and the Program for the Year in Junior High School —

Katsutoshi TANABE* Junko AKAMATSU** Junko UDAKA*

* (家庭科教室) ** 聖カタリナ女子短期大学

(1990年10月11日受理)

The following items were indicated : the comparison between the Old Course of Study and the New one, the summary of interpretation about the New one, authors' consideration about the New Course of Study and about the learning contents and the contents itself. These were as concerns 5 areas in Junior High School. And the Home Economics Program for the year in Junior High School were indicated also.

Each area's theme of the learning contents was as follows.

Area 1. 【Family Life】

— Family Relations, Natural Environment of Regions for Safety, Life and Economic Society, Life Information —

Area 2. 【Food】

— Reserching the Problems and the Source of Present Dietaty Life —

Area 3. 【Childhood Education】

— Sex and Self Formation —

Area 4. 【Clothing】

— Consumer Affairs of Clothing, Dressing and Clothing Plan —

Area 5. 【Housing】

— Natural Enviroment of Regions for Safety —

第1報の基本的な考え方と方法²⁵⁾に基づいて、中学校家庭科の学習内容構想と年間計画を示した。

結 果

1. 各領域の学習内容構想を表1.～5. に示した。

表1.～6. の見方は次のとおりである。

• 表は、左から順に次のように示した。

旧学習指導要領（目標・内容）

新学習指導要領（目標・内容）

新学習指導要領の解説……解説書^{6)～10)}を要約した。

考察……新学習指導要領に対する考察と学習内容構想の考え方を示した。

学習内容構想

- 旧・新学習指導要領におけるアンダーラインは、各学校段階での領域間にわたる両者の差異点を示した。
- 新学習指導要領の解説における * は、今回削除または統合された部分を示した。
- 新学習指導要領に解説におけるアンダーラインは、教科間・領域間の関連を示した。
- 考察における（ ）付き番号とカタカナ記号は、新学習指導要領のそれを示した。
- 新学習指導要領の解説・考察・学習内容構想における【家】は【家庭生活】領域を，【食】は【食物】領域を，【保】は【保育】領域を，【被】は【被服】領域を，【住】は【住居】領域を示した。
- 考察・学習内容構想における《 》は、学習内容の分類を示した。《 》の配置順および学習内容の番号は、必ずしも授業展開順を示すものではない。
- 考察・学習内容構想における番号は、第2～4報の通し番号で示した。関連する他領域の学習内容の番号は、（ ）をつけて示した。
- 新学習指導要領の解説・考察・学習内容構想における〈 〉は、教科等を示した。その内容を○で示した。〈 〉のない○は、教科を特定しないが関連する学習内容を示した。
- 考察・学習内容構想における 総合授業 は、総合授業を示した。

2. 家庭科を中心とした中学校技術・家庭科の年間計画を、各領域の配列順及び領域間の関連で示した。

－第1学年－

【家庭生活】領域 35時数（必修）

－関連する内容－

【被 服】領域：《洗淨》の統合

【住 居】領域：環境・ごみ・資源問題の総合化

【電 気】領域：エネルギー資源問題

【情報基盤】領域：生活情報の利用の仕方 家計

【木材加工】領域 35時数（必修）

－関連する内容－

【保 育】領域：遊び道具の製作

【住 居】領域：材質とその管理 環境測定機器の製作

－第2学年－

【食物】領域 35時数（必修）

－関連する内容－

【栽培】領域：農作物の栽培 生ごみの処理

【情報基礎】領域：栄養計算・献立評価等 食生活情報の活用

【電気】領域 35時数（必修）

－関連する内容－

【家庭生活】領域：エネルギー資源問題

【住居】領域：環境測定機器の製作 エネルギー資源 室内の安全

【情報基礎】領域と関連

【機械】領域と関連

－第3学年－

【保育】領域 30時数

－関連する内容－

【家庭生活】領域：家族

【木材加工】領域：遊び道具の製作

【金属加工】領域：遊び道具の製作

【機械】領域：遊び道具の製作

【住居】領域：遊び環境（住居・地域）

【食物】領域：幼児食・おやつ

【被服】領域：幼児服の素材・製作

【情報基礎】領域：保育情報の活用

【被服】領域 20時数

－関連する内容－

【栽培】領域：綿・麻の栽培

【家庭生活】領域：手入れ 着方 被服計画

【情報基礎】領域：デザイン 製図 衣生活情報の活用

【住居】領域 20時数

－関連する内容－

【家庭生活】領域：家族の生活 団らん 《洗淨》(住居の手入れ) 資源・廃棄物

【木材加工】領域：材質とその管理 環境測定機器の製作

【金属加工】領域：環境測定機器の製作

【機械】領域：環境測定機器の製作 室内の安全

【電気】領域：環境測定機器の製作 エネルギー資源 室内の安全

【情報基礎】領域：住居計画 住生活情報の活用

参 考 文 献

- 6) 文部省教育課程研究会監修, 津止登喜江・浅見匡・河野公子編著: 『技術・家庭科の解説と展開』, 教育開発研究所 (1989)
- 7) 津止登喜江・浅見匡・河野公子編著: 『(改訂) 中学校学習指導要領の展開 技術・家庭科編』, 明治図書 (1989)
- 8) 津止登喜江・浅見匡・河野公子編著: 『中学校新教育課程の解説 技術・家庭』, 第一法規 (1989)
- 9) 津止登喜江・浅見匡・河野公子編著: 『'89告示中学校学習指導要領 技術・家庭科の解説と実践』, 小学館 (1989)
- 10) 奥田真丈・河野重男・幸田三郎監修: 『〔新訂〕中学校学習指導要領の解説と展開 技術・家庭編』, 教育出版 (1989)
- 15) 『大学家庭科研究会会報』No. 51・52合併号, 11, 大学家庭科研究会 (1985)
- 16) 日本家庭科教育学会: 『家庭科教育・87時代の変化に応えるーカリキュラムの研究ー』, 33, 日本家庭科教育学会 (1987)
- 17) 田結庄順子: 家庭科教育の実践に関する一考察, 『日本家庭科教育学会誌』No. 16, 1~12, 家庭科教育学会 (1975)
- 25) 赤松純子・宇高順子・田辺勝利: 家庭科の学習内容構想とその具体化 (第1報) 基本的な考え方, 『聖カタリナ女子短期大学紀要』, 24 (1991) (投稿中)
(文献は, 本論文シリーズの通し番号で示した。)

表1. 中学校【家庭生活】領域

旧 学習指導要領	新 学習指導要領	新学習指導要領の解説 ⁶⁾ - 10)	考 察	学習内容構想 (35 時数)
	<p>1 目標 家庭生活に関する実践的・体験的な学習を通して、自己の生活と家族の生活との関係について理解させ、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。</p> <p>2 内容 (1) 家族の生活について、次の事項を指導する。 ア 家庭の機能と家庭生活の意義を知ること。 イ 家族の生活と家族関係について考えること。</p> <p>(2) 家庭の経済について、次の事項を指導する。 ア 家庭の収入と支出を知ること。 イ 物資・サービスの選択、契約、購入及び活用について考え、消費者としての自覚をもつこと。</p> <p>(3) 家庭の仕事について、次の事項を指導する。 ア 家庭の仕事の種類や内容について知り、計画を立てることができること。 イ 簡単な食事を整えることができること。 ウ 被服計画を考え、適切な着用及び手入れができること。 エ 室内の整備と美化の工夫ができること。</p> <p>(4) 家庭生活と地域との関係について考えさせる。</p>	<p>1 目標 小学校では、家族の一員としての自分の役割を押さえ、中学校では、自己の生活と家族の生活との関連を図る立場から学習させ、高校では、家庭を経営・管理する立場から学習させることを考慮し、領域として小・中・高の一貫性が保たれるようにする。 中学生の成長段階にふさわしい内容とする(科学的思考が発達し知識欲も旺盛になるとともに、家族からの自立を求める自我の確立の時でもある)男女が協力して家庭生活を築いていくための基礎的な技能を習得させる【家】領域全体の内容を総合的に組織し、領域全体を一つの題材として構成したり、家庭の仕事を中核に題材構成するなど、生徒が意欲的に学習できる内容とする。 単なる理論ではなく、家庭生活に関する実践的・体験的な学習を通して学ばせる(実験・実習・調査・観察・シュミレーション・ロールプレイング・事例研究・ホームプロジェクトなどもよい)</p> <p>2 内容 (1) 家族の生活 *「家族の立場」は小学校第5学年【家】領域から移行 歴史上の人物の家系図やマンガ「サザエさん」の一家等を参考にして、家族構成・生活内容の違いを知る 家族とは何かを考えさせ、家庭が人間関係を結ぶ大切な場であることに気づかせる 家庭の機能(個人のための機能、社会のための機能・・・健康維持機能・やすらぎの場・子どもの養育)を考えさせ、それらが社会の変化とともに変わってきていることにも気づかせる どのような家族がよいかという評価については問題にしない 家族員それぞれの立場・役割を知り、家族関係を円滑にするマナーを知る 家族の役割は固定的ではなく、家族構成や家族の変化などによってその立場や役割が変わることに気づかせる 他項目と関連づけるなどして単に理論のみで終わらせないようにする</p> <p>(2) 家庭の経済 消費者教育の新しい視点を加え、家庭の経済に関心をもたせる ア 生徒の家庭の事情を配慮しながら、各自の家庭の収入と支出を思い起こさせる 家族構成や家庭生活の違いによって生活にかかる費用が違ってくることに気づかせる 収入と支出のバランスを考える必要に気づかせる 収入や支出を記録・整理することにより、収入と支出のバランスをとることができることに気づかせる 現金以外の支出を知る 一般的な家計簿・小遣い帳の例示 イ カードの利用方法、訪問販売、街頭販売、クーリングオフ制度、通信販売を理解させる(スライド・新聞広告・新聞記事・各種カードなどの資料) なぜ購入したかについて調査し、物資の有効な活用について話し合わせる (3) のイ、ウ、エと関連させる 消費者相談についても触れる 消費者の立場と役割について考えさせる</p> <p>(3) 家庭の仕事 日常の家庭生活と関連させ、具体的な活動を通して、家庭の仕事についての計画と実践の仕方を学習させる ア 家庭の仕事の種類別分類をする(衣食住について、年間の仕事、毎日行った方がよいもの、周期的に行えばよいものがあることに気づかせる) 家庭の仕事の意義の理解(家庭の仕事は、金銭を獲得する目的の職業労働とともに欠くことのできないものであることに気づかせる) 家庭の仕事分担を進んでやってみるかをみる 自分のできる仕事を積極的に見つけて、男女の別なく、家族の一員として協力して仕事をしようという意欲をおこさせる イ 視点を決めて家族の一食分の食事が整えられるようにする(加工品を利用して能率よく調理する等) 家族によろこばれる食事の献立の条件について話し合わせる 材料の購入の仕方については(2)と関連させる <例>簡単な朝食作り、休日の昼食またはランチ作り、簡単な弁当作り ウ 【被】領域の(3)「生活と被服との関係」に関連させる 被服材料や整理を考え、日常の被服の購入・着用・手入れの計画を立て、実習する 用具・用剤の、選び方や購入の仕方等についても取り上げる <例>せんたく、しみぬき、補修、アイロンかけ エ 家族が共通して使う空間の整理・整とん、清掃の方法を話し合わせ、計画を立てさせる * 「室内の美化」は小学校第6学年【家】領域から移行 掃除をする時に役立つものや、室内の環境美化に役立つものの製作 <例>清掃、小物作り(ゴミ箱、ウォールポケット、花ぞうきん、のれん、壁かけ、カーテン、花瓶しき、敷物、ランチョンマット)、イ～エの融合教材でもよい(朝食・昼食のテーブルセッティング)</p> <p>(4) 家庭生活と地域との関係 家庭生活は、地域によって支えられていること、地域社会とのつながりによって、家庭生活が明るく楽しくなることに気づかせる 地域の人々との日常の交流と家庭のあり方を考えさせる 町内会の行事の写真、スライド、VTRなど 老人福祉を考えさせる</p>	<p>(1) 家族によって生活が違うことを知る ・<社会・公民>と関連 ○ 家族・地域の機能 ○ 家族制度 ○ 家族の人間関係 ・【住】《生活と住空間》と関連 1) 住まいと家庭生活 ・日本の暮しと住まい ・プライバシーと団らん ライフサイクルと生活空間 ・住まい方のルール プライバシー、近隣への配慮など住環境の維持、地域の環境作りに協力できる ・男女が共に働き続けるための保障¹⁵⁾ ・災害があった時の保障の男女差¹⁷⁾</p> <p>(3) イ ねらいがはっきりしないし、何が簡単な食事なのかが不明確なので、調理は【食】領域に統合する ウ 「洗濯」について、被服・人体・住居・食物をまとめて扱う エ 「室内の整備」は、【被】《洗濯》及び【住】領域で扱う 「室内の美化」は(美術)で扱う 「室内の美化に役立つ小物の製作」は、室内の整備と矛盾しがちであるので扱わない 「整備と美化」には、むしろ【住】領域の「資源の適切な使い方」「廃棄物の処理」が適切 総合授業 ・<保健体育>と関連 ○ 水質基準と浄化 ○ 廃棄物処理 ○ 公害 ・<理科>と関連 ○ 自然保全 ○ 生命尊重 ○ 資源やエネルギー源</p> <p>(2) 生活に必要な費用に、家計調査結果を利用するのは、全国平均なので実態とはくいちがっている したがって、各ライフステージ(教育・建築・介護・老後)での考察が必要である ・<社会・公民>と関連 ○ 消費生活から経済活動を理解する 価格、貯蓄、保険、社会での企業の役割、資源やエネルギーの有効な開発・利用、個人や企業の社会的責任、国や地方公共団体の役割</p> <p>(2) <技術>【情報基礎】領域と関連づける</p>	<p>一 家族関係、安全な地域の自然環境、生活と経済社会、生活情報一</p> <p>《人間の生活》 1 今の日本のいろいろな家族の現状を知る ・家族構成員や各家庭での家族員の役割を比較 ・生活を比較する(経済、弱者の保護、家事労働、団らん) ・家庭生活上ライフサイクル上でてくる問題を知る 子どもが家族員から遊離していること 老人の立場・役割を知る 単身赴任や離婚家庭など家族形態にかかわらず家族意識が重要であることに気づく ・家事労働の担い方を考える 担い手を三分類する(専業・パート・フルタイム共働き) パート労働の疲労度を見る 主婦症候群にかかった人の共通条件を見る ・家族関係(親子)を考える 例：家庭内暴力の典型例と自分の家族を比較 幼児虐待(弱者に対する配慮)</p> <p>総合授業</p> <p>《生活と環境》 2 お互いに住みよい環境をつくることのできる ・被服 洗濯 洗剤・漂白剤の種類とその働き 洗濯の原理の実験による理解、洗濯絵表示の理解、正しい洗濯の方法が理解できる 身体・被服・食器・食物・住居の洗浄 繊維 繊維の構造、繊維の性質 消費 着方、被服計画 ・住居 清潔保持の方法 ごみ処理と環境 近隣への気配りなど住環境の維持 ・家庭排水の環境への影響を調べる 川の物理化学的水質検査 生物循環がわかる ・水・空気・土・化学合成品・環境・資源の問題を総合的に考える 森林・ダム・河岸・河川・工場廃水・家庭排水・下水処理・赤潮・農業・肥料・化学合成品・汚染・公害・エネルギー源・エコマーク等</p> <p>《生活と経済》 3 限られたお金を有効に使う ・家計の仕組みと社会との関係を知る(収入と支出を知る、費目分類、%、使用目的) ・税金を知る 4 豊かな生活と経済の発展 ・最近の消費者問題を知る 問題の販売方法を知る サービスや財の購入の視点が整理できる ・家庭内点検をする なぜ買ったかを点検する CMにでる商品・でない商品を調べる CM代金を調べる 安いのに広告費をかけて売るしくみ 衝動買いを点検する 流行は誰が作るか ディスプレイの工夫 ・より良い安い品が選べる 表示と性能の点検をする 苦情処理の方法がわかる 5 生活情報 ・生活情報誌を調べる 読むべき雑誌、利用すべき機関・施設を知る 情報処理の仕方を調べる ・情報施設を調べる</p>

表2. 中学校【食物】領域

旧 学習指導要領	新 学習指導要領	新学習指導要領の解説 ⁶⁻¹⁰⁾	考 察	学習内容構想 (35 時数)
<p>1 目標 (1) 簡単な日常食の調理を通して、青少年に必要な栄養及び食品の性質について理解させ、青少年の食事を整える能力を養う。 (2) 青少年向けの献立作成及びその日常食の調理を通して、食品の選択について理解させ、青少年にふさわしい食事を計画的に整える能力を養う。 (3) 成人向けの献立作成及びその日常食の調理を通して、成人の栄養について理解させ、成人にふさわしい食事を計画的に整える能力を養う。</p> <p>2 内容 〔食物1〕 (1) 青少年の栄養および日常食の献立について理解させる。 (2) 食品の性質とその選択について、次の事項を指導する。 ア 食品の栄養的特質を知ること。 イ 米、魚、肉、野菜、食塩及びみその調理上の性質を知ること。 ウ 穀類、生鮮食品などの品質の良否を見分けることができること。 (3) 日常食の調理について、次の事項を指導する。 ア 米飯およびみそを用いた汁物を作ることができること。 イ ルーを用いた汁物を作ることができること。 ウ 魚や肉の油焼き及び卵焼きができること。 エ 野菜、果物などを用いたため物及びサラダを作ることができること。 オ 調理用具と調理用熱源の使い方及びそれらの安全な取扱いができること。 (4) 適切な食事のとり方及び食事作法について考えさせる。 〔食物2〕 (1) 青少年の日常食の献立が立てられるようにする。 (2) 食品の性質とその選択について、次の事項を指導する。 ア 小麦粉、油脂、寒天、しょうゆ及び食酢の調理上の性質を知ること。 イ 食品の品質表示及び食品添加物を知ること。 ウ 使用目的、価格などに応じた食品の選び方を考えること。 (3) 日常食の調理について、次の事項を指導すること。 ア すし飯と澄まし汁を作ることができること。 イ 乾めんを用いた調理ができること。 ウ ひき肉を用いた調理ができること。 エ 野菜を用いた煮物及び揚げ物を作ることができること。 オ 小麦粉を用いた菓子及び寒天を用いた寄せ物を作ることができること。 (4) 加工食品の利用と調理との関係について考えさせる。 〔食物3〕 (1) 成人の栄養を理解させ、日常食の献立を立てられるようにする。 (2) 食品の性質について、次の事項を指導すること。 ア 肉と魚の種類による違いを知ること。 イ 牛乳、卵及びでんぷんの調理上の性質を知ること。 (3) 日常食の調理について、次の事項を指導すること。 ア 味付け飯とくず汁を作ることができること。 イ 魚の煮物や直火焼きができること。 ウ 海藻、魚介、野菜などを用いた酢の物及びあえ物を作ることができること。 エ 卵を用いた蒸し物を作ることができること。 オ 小麦粉、卵などを用いた天火焼きができること。 (4) 食物費と生活費との関係について考えさせる。</p>	<p>1 目標 日常食の調理を通して、栄養及び食品の性質と選択について理解させ、青少年にふさわしい食事を計画的に整える能力を養う。</p> <p>2 内容 (1) 青少年の栄養及び日常食の献立について、次の事項を指導する。 ア 青少年の栄養の特徴を知ること。 イ 一日に必要な食品の種類と概量を知り、献立を考えることができること。 (2) 食品の性質とその選択について、次の事項を指導する。 ア 食品の栄養的特質を知ること。 イ 米、魚、肉、牛乳、野菜、小麦粉の調理上の性質を知ること。 ウ 食品の品質を見分け、用途に応じて適切に食品を選ぶことができること。 (3) 日常食の調理について、次の事項を指導する。 ア 米を用いて、変わり飯の調理ができること。 イ 魚や肉を用いて、焼き物、煮物又は汁物を作ることができること。 ウ 野菜を用いて、いため物、ゆで物又はあえ物を作ることができること。 エ めん類を用いた調理ができること。 オ 小麦粉を用いた菓子を作ることができること。 カ 食塩、みそ、しょうゆ、さとう、食酢、油脂について適切な取扱いができること。 キ 食品や調理用具の安全で衛生的な取扱いができること。 ク 調理用熱源の適切な取扱いができること。 (4) 適切な食事のとり方及び食事作法について考えさせる。</p>	<p>1 目標 青少年に身近な日常食の調理を通して、青少年の栄養の特徴、食品の栄養的特質や調理上の性質、食品の適切な選択の仕方の理解、基礎的な調理技術の習得、青少年にふさわしい食事を計画的に整える能力を養う。生徒の実態に即した題材(小学校の基礎の上に立つもので、青少年の栄養や嗜好を考慮し、日常食にふさわしいものであること)を扱い、日常生活で活かせるようにする。 小・中・高校の系統性をもたせる</p> <p>2 内容 (1)、(2)、(4) は、(3) の題材と十分関連づけて指導する (1) 青少年の栄養及び日常食の献立 青少年の体の発育と食物の大切さを理解させる 青少年期に必要な栄養素とその働き、栄養所要量を知らせ、性別・年齢・運動量等で必要量が異なることを知らせる 食品成分表の見方を知らせ、活用できるようにする 献立から栄養所要量の充足度を計算させる 食品を食品群に分類できるようにする(六つの基礎食品群、一日量) 食品群別摂取量の目安は栄養所要量を満たすために考えられていることを知らせ、青少年が一日に必要な食品の種類と概量を知らせる 食品の組み合わせ・栄養面を中心に、青少年にふさわしい一日の献立を考えることができるようにする 各自の食事記録により食品の摂取状況とその改善点を検討させる (2) 食品の性質とその選択 生鮮食品・加工食品の原料、特徴、品質の見分け方を知らせ、消費者を育てる立場から、用途に応じた食品の選択ができるように指導する(品質表示等) 食品成分表を使って調べさせる(米の搗精の度合いによる成分上の相違点、肉・みそ等の種類による成分の違い) 調理により、肉の種類や部位を選択する必要があること、購入後の保存方法を知らせ、食品を衛生的かつ安全に取り扱うことできるようにする (3) 日常食の調理 *揚げる操作は、作業の危険性や油の管理などから考えて、高等学校へ移行した ア～オの調理を網羅して指導する 食品・調味料・用具・熱源の適切な取扱い方、調理計画の立て方、基本的な調理操作の科学的な原理を知らせ、方法等(切り方、加熱、調味等)を指導する 献立作成の条件と手順を理解させる 考えた献立について、食品の種類と概量及び組み合わせが適切かどうかを検討・修正させる 調理材料の選択と費用の見積りができるようにする 食品の廃棄率を考慮して調理材料を計算させる 炊飯実験等を行ない、浸水・調味・加熱等による米と米飯の違いを外観・味・重量などの点から観察させる(米でんぷんの糊化) 米と芋はなぜ加熱調理するかを考えさせる たき込み飯の具の種類により、米に対する水の割合を増減する必要があることに気づかせる 汁の塩分濃度・飲料の砂糖濃度、摂取量を知らせる 食塩・しょうゆ・みその調味料としての適量を知らせる カはア～オと関連させる ひき肉のねばり、スパゲッティのゆで時間(実験)、塩の割合や加熱の仕方による材料の変化(比較実験)、ビタミンCの調理による変化、嗜好品の摂り方を考えさせる 調理実習はなるべく多回数行う <例> ア えんどう飯、筍飯、栗飯、芋飯、きのこ飯、五目たき込み飯、ちらしずし、郷土の変わり飯、ピラフ、チキンライス、焼き飯 イ 魚の塩焼き(照り焼き)、魚の煮つけ、魚のみそ煮、ムニエル、鶏肉のつけ焼き、ハンバーグステーキ、みそ汁、さつま汁、けんちん汁、すまし汁、うしお汁、カレー、シチュー、スープ ウ 野菜いため、ゆで野菜、ひたし、ごまあえ、酢みそあえ、酢じょうゆあえ、野菜サラダ エ スパゲッティ・ナポリタン(ミートソース)、五目めん(冷or暖)、煮込みうどん、肉みそそば、冷やむぎ、郷土のめん料理、蒸しケーキ(蒸しパン)、ホットケーキ、カップケーキ、マドレーヌ、クレープ、お好み焼き <献立例> ・ハンバーグステーキ、スパゲッティとゆで野菜(野菜サラダ)添え ・ムニエル、粉ふき芋、サラダ ・たき込み飯、すまし汁(さつま汁)、魚の塩焼き(青菜ひたし) ・カレー(シチュー)、フルーツサラダ ・ピラフ、スープ ・肉みそうどん、青菜のひたし ・冷やしラーメン ・蒸しケーキ(クッキー)、フレッシュジュース(スープ) (4) 適切な食事のとり方及び食事作法 料理に適した食器に感じよく盛りつけさせる 食器や箸の位置を考えて配膳をさせる 食事作法の指導は試食時等にする 生活の中で果たす食事の役割を理解させる 良い食習慣をつけることの大切さに気づかせ、実践しようとする意欲を養う</p>	<p>・食生活の問題とその原因が、社会的視点から捉えられるようにする必要がある ・健康につながる食物の価値観を形成させる 食べ物は命の糧 外見に惑わされない 食生活の乱れや安全性が及ぼす健康への影響をしっかりと理解させる</p> <p>・行事食¹⁶⁾</p> <p>・【家】《生活と経済》と関連 4) 生活情報 ・生活情報誌を調べる ・情報施設を調べる</p> <p>・<保健体育>と関連させる ○ 健康と食事 ○ 疾病と薬物乱用</p> <p>・【家】《生活と環境》と関連 4) 豊かな生活と経済の発展 ・家庭内点検をする ・より良い安い品が選べる ・最近の消費者問題を知る</p> <p>・材料配合の基準がわかり、調味しつつ調理する(下味をつける、煮る、揚げる、炊く) (3) エ「めん類」とオ「小麦粉菓子」は、【保】「幼児の食」へ統合 (五目うどん、お好み焼き)</p> <p>・【家】《生活と環境》と関連 2) お互いに住みよい環境をつくらせることができる ・家庭排水の環境への影響</p>	<p>一現代食生活の問題とその原因を探る一</p> <p>《食文化》《食料事情》 1 現代食生活の特徴を知る ・食品産業・外食産業・集団給食・惣菜産業を調べる 生産・流通、売るための方法、自動販売機や大型ストアの普及と加工食品の流通の関係を調べる 利用状況(食費中の加工食品・外食割合) 食生活・生態への影響 ・生鮮食品の生産・流通経路 米・青果・魚・牛乳・肉等の生産・流通 ・日本の食糧事情 自給率低下・輸入依存の実態を知る ・食生活の乱れの実態と自己管理の必要性がわかる 偏食・拒食・過食・五食 ・嗜好の形成過程を知り、嗜好が自分の生活態度や意識で変化しうることがわかる ・食の多様化と和食文化の衰退 伝統食の継承の必要性がわかる ・日本と外国の食文化 食文化と風土の関連を知る ・食の情報を調べる 加工食品の情報収集 宣伝や見かけ・流行に惑わされず、自分の食生活に必要なものだけを主体的に選択する必要がある 消費者としての態度が価格・品質決定の重要な要因であることがわかる</p> <p>《食事と健康》《基礎的な調理》 2 食品の安全性、選択、取扱いを調べる ・食品添加物、農薬、包装器材、食器、洗剤の成分・使用目的・使用状況・安全性を調べる ・生鮮食品の見分け方(品質・鮮度) ・食品の特徴と変敗を知る 米・米粉・小麦粉……でんぷん老化 食用油脂……………脂肪酸敗 魚介・肉・卵・豆……たん白質分解 ・加工食品の表示の意味がわかる ・苦情処理の仕方を知る (食品の規準が守られていない、過大包装・誇大広告・危険食品等) ・集団食中毒、食品公害、ごみ処理等の社会的問題を知り、原因をさぐる 3 食品の概量と献立 ・青少年の栄養所要量と摂取状況を知る 栄養素の体内での変化と役割を知る 日本人の栄養水準と国際比較 ・欠乏症・過剰症がわかる たん白質・脂質・ビタミン・ミネラル・繊維等 ・成人病と食生活の関係を調べる ・食品の概量がわかる 一日の食事を食品群に分け、食品の種類と量が適切かを調べる 一食分の食品群別摂取量と食品の概量を調べ、一食分の献立の目安量を知る ・伝統的な献立構成の合理性がわかる 栄養価・味のバランス ・種々の献立を評価する (情報の選択能力を養う) ・一食分の献立が作成できる(一汁三菜) 4 調理 ・調味料・温度・時間による性状の違いを知る あえ物の放水 煮物の味つけ 実験 揚げ温度 <実習例> ・炊飯、魚塩焼き(または照焼き等の応用の焼き物)、野菜の煮物、あえ物 ・すし、すまし汁、煮揚げ、即席漬け ・ごみ処理</p>

表3. 中学校【保育】領域

旧 学習指導要領	新 学習指導要領	新学習指導要領の解説 ⁶⁾ -10)	考 察	学習内容構想 (30 時数)
<p>1 目標 幼児の遊び、食物及び被服に関する学習を通して、その心身の発達に応じた生活について理解させ、幼児に対する関心を高める。</p> <p>2 内容 (1) 幼児の心身の発達について、次の事項を指導する。 ア 体重、身長及び運動機能の発達の状態を知ること。 イ 言語、情緒及び社会性の発達の傾向を知ること。</p> <p>(2) 幼児の遊びを中心とした生活について、次の事項を指導する。 ア 心身の発達を助ける安全な遊び道具や遊び場を考えること。 イ 幼児に適した遊び道具の製作ができること。 ウ 遊びに関する生活習慣をつける必要性を考えること。 (3) 幼児の衣生活や食生活について、次の事項を指導する。 ア 着用目的に応じた被服の選び方と着せ方考えること。 イ 幼児の遊び着の製作ができること。 ウ 幼児向き1日分の献立作成ができること。 エ 幼児の間食を作るができること。 オ 被服や食事に関する生活習慣をつける必要性を考えること。</p> <p>(4) 幼児の発達と環境との関係について考えさせる。</p>	<p>1 目標 幼児の遊び、食物及び被服に関する学習を通して、その心身の発達に応じた生活について理解させ、幼児に対する関心を高める。</p> <p>2 内容 (1) 幼児の心身の発達について、次の事項を指導する。 ア 身体発育及び運動機能の発達の状態を知ること。 イ 言語、情緒及び社会性の発達の傾向を知ること。</p> <p>(2) 幼児の生活について、次の事項を指導する。 ア 心身の発達に応じた遊びについて考え、幼児に適した遊び道具の製作ができること。 イ 幼児の食生活について考え、簡単な間食を作ることができること。 ウ 幼児の衣生活について考え、簡単な被服の製作ができること。 エ 発達段階に応じた適切な生活習慣を身に付けさせることの必要性を知ること。</p> <p>(3) 幼児の発達と環境との関係について考えさせる。</p>	<p>1 目標 中学校では、生徒が将来親になった時の子どもの育て方を学習するのではなく、ここで学んだことがそのまま生徒の現在の生き方に結びつくことをねらいとしている。幼児の理解とともに、両親や多くの人々の愛情や心使いを受けて成長してきたことに気づき、幼児への暖かい心情や幼児への関心を深めさせる。 周りの人々や社会のあり方が幼児の成長・発達におよぼす影響に気づかせ、人格形成期の保育の大切さを認識させる。 生徒が主体的に幼児に関わりながら幼児への関心を深めるよう配慮する。 幼児に適した遊び道具の製作、間食の調理、幼児の被服の製作などの実践的活動を通して学習させる。</p> <p>2 内容 (1) 幼児の心身の発達 生徒の出生や成育歴を扱う場合は、個人生活の侵害にならぬように注意する。 観察(近所の子どもや保育所等)・スライド・写真によって特徴を発見していくような主体的な活動(望ましい)・子どもの遊びの記録の仕方指導する。 (2) (3)と関連づけて具体的に指導する。 幼児を観察させたり、事例をあげたりして、発達の特徴や傾向・順序性の基本的な概要を取り上げ、幼児の身体発育のグラフ、情緒の分化、スカモンの発育曲線、一般的な体重・身長を知らせる。 幼児期の心身の発達の著しいことを理解させる。 大人のひな形でないことを理解させる。個性を認めることを理解させる。 写真の表情から幼児の気持ちを推察し、情緒の分化を理解させ、その幼児への対応を考えさせる。 幼児を世話するにはどのような知識(人間理解)や技術が必要か話し合わせる。見逃してしまいがちな幼児の動作や表情から、深く観察することにより、より様々なものが見えてくることに気づかせる。 語いの増加や文構成の変化などを録音したものを聞かせて、言語発達に気づかせ、言語発達の要因、言語の発達と知能との関係を知らせる。 遊びが運動機能や言語の発達と関連することを事例によって知らせる。遊び仲間・絵本や童話の必要性を理解させる。 幼児には保護者との関わり方が大きく影響することに気づかせる。 (2) 幼児の生活 製作や実習を通して、遊びを中心とした生活・食生活・衣生活を理解させる。作ることを目的とした製作にならないように留意する。 幼児がどんな遊びをしているか、元気がよく遊ぶためにはどんな服装が適切かなど、観察や、映像の視聴、写真や記事集めなどの実践的活動による導入後に、製作の計画を立てさせる。 作品完成後に実際に使ってみたり幼児に適切だったかどうかを話し合うなど、評価することにより、さらに幼児への関心が深まり、また幼児への暖かい心情が育つようにする。作品の評価は技術面は重視せず、対象児への適応性への工夫、幼児の本質をわきまえた製作意図・思いやりの工夫などについてみる。 ア 遊びの意義(遊びによって幼児の心身が育つこと)をよく理解させ、幼児の心身の発達を助ける遊び道具を工夫して作ることを目指す。 対象児を想定させ、性別・年齢・安全性・好み・理解力を考えさせ(情緒の分化の図)、幼児への願い(楽しんでほしい、好き嫌いをなくす、生き物をかわいがるように、歯磨きをしようなど)を作品にどのように表現するか工夫させる。幼児と作ろうとする遊び道具との関わり方を考えさせる。 <例>絵本、紙芝居、人形劇、影絵、ペープサート、ネットシアター、お手玉、かざぐるま、輪投げ、布ボール、人形、人形の家、紙電話、ままごとセット、おもちゃの整理箱、積木、絵合わせ、立体パズル、積み木・乗り物・動くぬいぐるみ(【木材加工】【金属加工】【機械】領域の学習の応用として、またはダンボール等の利用もよい)。 イ 中学生と中学生と幼児の栄養所要量を比較して特徴に気づかせ、幼児期における食生活が心身の発達に及ぼす影響が大きいことを理解させる。 間食の意義を考え、幼児の年齢に応じた食品、材料の量、消化の良い食品や調理の仕方を知らせ、間食の計画を立ててつくることができるようにする。 地域の産物利用、昔からの幼児のおやつも見直させる。 <例>ホットケーキ、クレープ、カップケーキ、蒸しケーキ、人参ケーキ、フルーツヨーグルト、生ジュース、牛乳ゼリー、果実ゼリー、コンポート、幼児の食べやすい果物の切り方、カスタードプディング、パンプディング、サンドイッチ、お好み焼き、蒸し芋、草餅、フルーツ白玉。 ウ 幼児独特の体型、生理現象、遊びやすさ、年齢、性別などから、幼児に適した被服の形や材質を考えさせる。 情緒を豊かにするための組み合わせ、自分で着脱できる形を、実物・写真・絵などから知らせ、計画の中で考えさせる。 簡単にできる被服を製作させる。 <例>スモック、エプロン、腹巻き、パンツ、じんべえさん、パーカー、ベスト、サロペット、帽子、レッグウォーマ(編物)、ヘアバンド。 エ 遊び道具の後片づけ、遊び場の整理・整頓、食前の手洗い、食前食後の挨拶、食卓の作法、着脱や脱いだものの後始末が自分でできることなどの生活習慣の必要性を知らせる。 幼児の自立心の芽生えや心身の発達(運動機能の発達等)に即した生活習慣のつけ方を考えさせる。家族の対応の大切さに気づかせる。 (3) 幼児の発達と環境 幼児の成長・発達は、幼児を取り巻く環境の影響が大きいことを知らせる(家族の信頼、愛情あふれた家庭の雰囲気、家族の一貫した保育の考え方、社会の人々の幼児に対する愛情や関心、安全な保護の必要性)。「狼に育てられた子ども」等から環境の大切さを話し合わせる。新聞記事等から、親の役割・家庭環境・社会環境等について話し合う。 幼児の集団生活による人間形成にも気づかせる。 公共の場における幼児の行動の安全性、幼児のための関係機関や福祉施設を調べさせる。 社会のすべての人々が幼児の幸せのためにどんなことができ、また関心を持たなければならないかを話し合わせる。幼児理解から自己理解を深めることへと結びつける。自分がここまで育てられて来たことへの感謝の気持ちを持ち、保育は単に親や家族だけに関わる行為ではないことを認識させる。</p>	<p>・中学生が幼児の学習を通して自己形成を考えるようにさせる。 ・自分自身の体を理解するためにまず第二性徴期を取り上げ、その後、新学習指導要領に従い、第一性徴期を取り上げる。 ・<保健体育>と関連させる。 ○ 第二性徴、性差、個人差。 ・【家】(人間の生活)と関連。 1) 今の日本のいろいろな家族の現状を知る。 ・家族関係(親子)を考える。 …家庭内暴力、幼児虐待。 ・家族構成員や各家庭での家族員の役割を比較する。 ・生活を比較する。 ・家庭生活ライフサイクル上でとる問題を知る。 ・家事労働の担い方考える。 ・家族関係(親子)を考える。 ・<社会・公民>と関連させる。 ○ 家族・地域の機能。 ○ 家族制度。 ○ 家族の人間関係。</p> <p>(1) ア 幼児についての断片的知識の羅列ではダメ。 ・私の生育史¹⁵⁾。</p> <p>(3) 幼児への関心が高まるだけでなく現状における問題点がかかるようにする。また、家庭内での身近な解決方法がわかるようにする。 ・【注】(事故・災害)と関連。 2) 事故・災害。 ・家庭内事故防止(幼児)。 ・【被】(着方)と関連させる。 3) 着方を考える。 ・高齢者・幼児の被服。 難燃繊維。 ・【家】(生活と経済)と関連。 4) 豊かな生活と経済の発展。 ・家庭内点検をする。 ・より良い安い品が選べる表示と性能を点検。 5) 生活情報。 ・生活情報誌を調べる。 ・情報施設を調べる。 ・【家】(人間の生活)と関連。 1) 今の日本のいろいろな家族の現状を知る。</p> <p>・時間調節は実習で行う。実習は選択でも可。 ・【食】(食事と健康)と関連。 3) 食事と健康(成人病と食)。 1) 現代食生活の特徴を知る。 ・食生活の乱れと自己管理。 ・【被】(着方)と関連。 3) 着方を考える。 ・快適な被服内気候。 ・着装に伴う健康障害。</p>	<p>-性と自己形成-</p> <p>I. 思春期(第二性徴期)の発達・発育 (人間の体) 1 人間の性の特徴を知る: 性行動 思春期の心 2 生殖器官を知る 受精、性交、受胎、妊娠、分娩、性病 個人差 3 家族計画と避妊を知る 受胎調節と避妊具 中絶…方法、危険性、健康、法律</p> <p>(人間関係) 4 異性の人間関係を考える 異性の理解、異性の友人 平等、交際、自立、責任</p> <p>(人間と社会) 5 性情報との関わり方考える 心理面・精神面の性情報 6 性非行と処罰: 性犯罪 売買春</p> <p>II. 幼児期(第一性徴期)の発育・発達 (幼児の発達) 7 人間の発達の順序を知る 体重・身長の特徴 各器官の発育・発達 幼児の病気 精神機能、運動機能の発育・発達 ・性差、個人差 ・発達の節目、異常発見と対策</p> <p>8 幼児の生活リズム ・発達段階と生活習慣を知る 排泄、清潔、食事、睡眠、脱ぎ着</p> <p>(幼児の遊び) 9 幼児の遊びと発達・健康を考える ・年齢に適した運動遊びと体の発達 運動不足→扁平足、側弯症、骨折 ・創造遊びと精神的発達 創造遊びと早期知的教育 <保育所訪問>(LHR…ボランティア含)</p> <p>(幼児の環境) 10 幼児の環境を整える ・遊び環境の整備 空間 住居との関係 (高層階・室内条件(温度・窓)) 地域環境(ちびっ子広場・児童公園) 物 遊び道具・絵本と遊び おもちゃ・絵本の選び方 いらなくなかったおもちゃの処理 <例>幼児の発達を促す遊び道具の製作 絵本の製作とその活用(夏休み課題)</p> <p>人 親、友達、保母・保父、祖父母 ・幼児の事故を知る 衣 和布団のうつ伏せ寝、ひも、やけど 食 何でも口に入れる 住 アイロンやけど、階段や段差のけが、 ドアにはさむ、ベッドの柵、火遊び ・市販の工夫した家具などを知る ・大人が注意すべきこと</p> <p>・保育情報 情報の選び方 11 集団保育と家庭保育を考える 母と子のみで閉じこもることがないように アグネス論争、集団遊び・一人遊び 生活習慣</p> <p>12 幼児の食について調べる ・幼児食の特徴と間食の意義を知る 食事と間食の違いがわかる ・市販の菓子・飲料と幼児の間食の適否の理解 <例>やきいもと牛乳 牛乳ゼリー 五目うどん お好み焼き(小麦粉)</p> <p>13 幼児の衣について調べる ・幼児服の特徴と幼児の生理機能がわかる ・市販の服の点検をする 製作例: エプロン 一枚のタオルから</p>

表4. 中学校【被服】領域

旧 学習指導要領	新 学習指導要領	新学習指導要領の解説 ^{(6)・(10)}	考 察	学習内容構想 (20 時数)
<p>1 目標</p> <p>(1) 作業着の製作を通して、作業と被服との関係について理解させ、作業に適した被服を製作し、活用する能力を養う。</p> <p>(2) 日常着の製作及び被服整理を通して、活動と被服との関係及び被服材料の性能について理解させ、活動に適した被服の製作及び繊維製品の取り扱いを工夫する能力を養う。</p> <p>(3) 休養着の製作及び手芸品の製作を通して、休養と被服との関係及び手芸の特徴について理解させ、休養に適した被服及び目的に応じた手芸品を製作し、衣生活を快適にする能力を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>【被服1】</p> <p>(1) スモックの構成を理解させ、製作計画が立てられるようにする。</p> <p>(2) スモックに適した被服材料の特徴を理解させ、その選択ができるようにする。</p> <p>(3) スモックの製作の方法について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 採寸及び型紙の選択ができること。</p> <p>イ 裁断、本縫い及び仕上げができること。</p> <p>ウ 二度縫い、三つ折り縫い、見返し布による縫い代の始末、そで付けなどができること。</p> <p>エ 裁縫用具の適切な取扱いができること。</p> <p>オ 裁縫ミシンと電気アイロンの使い方及びそれらの安全な取扱いができること。</p> <p>(4) 作業と被服との関係について考えさせる。</p> <p>【被服2】</p> <p>(1) スカートの構成を理解させ、製作計画が立てられるようにする。</p> <p>(2) スカートに適した被服材料の特徴を理解させ、その選択ができるようにする。</p> <p>(3) スカートの製作の方法について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 採寸及び型紙の選択と補正ができること</p> <p>イ 裁断、仮縫い、補正、本縫い及び仕上げができること。</p> <p>ウ ダーツの縫い方、端ミシンによる縫い代の始末、あきの始末、ベルト付けなどができること。</p> <p>(4) 日常着の洗濯について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 編み物製品の手による洗濯、機械による洗濯及び仕上げができること。</p> <p>イ 繊維製品の取扱い表示記号に従った取扱いができること。</p> <p>(5) 活動と被服との関係及び着装について考えさせる。</p> <p>【被服3】</p> <p>(1) パジャマの構成を理解させ、製作計画が立てられるようにする。</p> <p>(2) パジャマに適した被服材料の特徴を理解させ、その選択ができるようにする。</p> <p>(3) パジャマの製作の方法について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 採寸及び型紙の選択と補正ができること。</p> <p>イ 裁断、仮縫い、補正、本縫い及び仕上げが能率的にできること。</p> <p>ウ 伏せ縫い、パイアステープによる縫い代の始末、えり付け、そで付けなどができること。</p> <p>(4) 手芸について、次の事項を指導する。</p> <p>ア ししゅう、編み物及び染色の特徴を知ること。</p> <p>イ ししゅう、編み物及び染色によって製作品を作ることができること。</p> <p>(5) 休養と被服との関係及び洋服と和服の特徴について考えさせる。</p>	<p>1 目標</p> <p>日常着及び簡単な手芸品の製作を通して、生活と被服との関係について理解させ、衣生活を快適にする能力を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 簡単な被服の製作について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 被服の構成を知り、製作計画を立てることができること。</p> <p>イ 製作に適した被服材料の選択ができること。</p> <p>ウ 採寸及び型紙の活用ができること。</p> <p>エ 裁断、本縫い及び仕上げができること。</p> <p>オ 布地や目的に応じた適切な縫い方及び縫い代の始末ができること。</p> <p>カ 裁縫用具の適切な取扱いができること。</p> <p>キ ミシンとアイロンの安全で適切な取扱いができること。</p> <p>(2) 手芸について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 日常生活と手芸品の関係について考えること。</p> <p>イ 簡単な手芸品の製作ができること。</p> <p>(3) 生活と被服との関係について考えさせる。</p>	<p>1 目標</p> <p>日常着の製作・簡単な手芸品の製作を通して、被服の構成の基本、着用品と被服との関係、被服材料の性能、手芸品の特徴を理解させ、縫製の基本的技術、ミシン・アイロンなどの安全な取り扱いを習得させる</p> <p>また実習を通して、被服を適切に選択・着用し、衣生活を快適にする能力を養う</p> <p>ししゅう・編物又は染色に関する基本的な知識と技術を習得させ、生活を明るく楽しくする能力を養う</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 日常着の製作</p> <p>上半身または下半身のいずれかの理解でよい</p> <p>休養着の種類をあげさせ、成長期の中学生にふさわしい形や布地を考えさせる</p> <p>からだの動きと被服のゆるみとの関係を考えさせる</p> <p>立体構成の基礎を理解させる 生徒に思考させながら被服の構成を理解させる</p> <p>型紙の選択基準が、上衣は胸囲、下衣は腰囲であることを理解させ、型紙の寸法区分・ゆるみを説明する</p> <p>合理的作業のための製作計画を立てさせる</p> <p>繊維や布地標本により、日常着に適した被服材料(綿・毛・レーヨン・ポリエステル・ナイロン・アクリル)の特徴(吸湿性・吸水性・通気性・防しわ性・丈夫さ)、混紡織物の特性、平織とあや織の組織の違い、布地の表裏、手ざわり、光沢等を観察させ、布地の耐久性について説明する</p> <p>ミシン糸・しつけ糸の違いを観察させ、ミシン糸の規格と布地との関係を調べさせる</p> <p>題材に適した布地や付属品の選び方を習得させる 付属品の標本 品質表示・取り扱い表示の目的(消費者保護)について考えさせ、表示の方法及び読み取り方を理解させる</p> <p>被服材料の選択・購入・使用について、品質表示の利用や活用を消費者の立場から考えさせる</p> <p>布幅・布目・型紙の配置・縫い代・必要枚数を理解させ、用布量の計算と価格について説明する</p> <p>布地の材質から地直しの必要性と方法を説明し、地直しを必要とする布地には、アイロンかけ程度の地直しをさせる</p> <p>縫製に必要な機械・器具の正しい操作と安全な取り扱いを習熟させる</p> <p>手縫いのまつり縫い、ミシンによる曲線縫い、ピンキングハサミ、二度縫いや三つ折り縫い、ロックミシンまたはジグザグミシンによるかがり縫い、見返し布による縫い代の始末、端ミシンによる縫い代の始末などを学ばせる</p> <p>仮縫いを省いてもよいもの、ウエストにゴムを入れる題材でもよい</p> <p><例></p> <p>ベスト、スカート、パジャマ、パーカー、スカート、キュロットスカート、ショートパンツ、リラックスウェア</p> <p>実物標本、部分標本、分解組立て標本、拡大標本等の利用</p> <p>製作品を着用する喜びを味わわせる</p> <p>被服に対する鑑識眼を育てる</p> <p>(2) 手芸</p> <p>手芸が衣生活や住生活に潤いを与え、豊かなものになっていることを考えさせる</p> <p>ししゅう・編み物・染色のうちから適切なものを選び、簡単な手芸品を製作させる</p> <p>材料の選択、用具の安全な使い方を理解させる</p> <p><例></p> <p>ししゅう……製作した日常着にワンポイントのなししゅう、ブックカバー、テーブルセンター、コースター、ベルトなど</p> <p>編み物……モチーフなど</p> <p>染色……しぼり染めによるスカーフやふろしきなど</p> <p>(3) 生活と被服との関係</p> <p>中学生にふさわしい日常着の条件を考えさせる(動きやすく発育に対処できるよう適度のゆとり、洗濯や仕上げの簡単なもの) 下着の着方、上着の組み合わせ方、衛生的な着方及び組み合わせ方、時・場所・目的に合った着方などを考えさせる</p> <p>季節、被服の機能、既製品の選び方に触れる 服装が個性表現の重要な一要素であることにも触れる</p> <p>【家】領域の(3)「家庭の仕事」と関連させる</p>	<p>被服材料の理解を深めるために時間配分や教材を工夫して、実験を導入する必要がある</p> <p>これからの衣生活⁽⁵⁾</p> <p>衣料事情、材料の生産量、流行の本質と主体的に着る服、被服と健康、特殊加工⁽⁷⁾</p> <p>【保】《幼児の環境》と関連</p> <p>10) 幼児の環境を考える</p> <p>・幼児の事故を知る</p> <p>【家】《生活と環境》と関連</p> <p>2) お互いに住みよい環境をつくること</p> <p>・洗濯</p> <p>正しい洗濯の方法が理解できる</p> <p>身体・被服・食器・食物</p> <p>・住居の洗濯</p> <p>洗濯の原理の実験による理解</p> <p>・家庭排水の環境への影響を調べる</p> <p>川の物理化学的水質検査</p> <p>生物循環がわかる</p> <p>衣類に限らず被服全体を考える</p> <p>【家】《生活と経済》と関連</p> <p>4) 豊かな生活と経済の発展</p> <p>・最近の消費者問題を知る</p> <p>・より良い安い品が選べる</p> <p>5) 生活情報</p> <p>・生活情報誌を調べる</p> <p>・情報施設を調べる</p>	<p>被服の消費生活問題</p> <p>《被服材料》</p> <p>1 繊維・糸・織物</p> <p>・被服材料を調べる</p> <p>絹・アクリル含</p> <p>繊維の種類と用途</p> <p>・繊維の構造と繊維の性質の関係をj知る</p> <p>顕微鏡観察</p> <p>軽さ・保温性・光沢・フェルト性</p> <p>・糸の構造と性質の関係をj知る(実験)</p> <p>撚りの度合いと強度</p> <p>縫い糸と織物・編物糸</p> <p>・織物を織る</p> <p>織物の構造と性質の関係をj知る</p> <p>2 地元の繊維産業の見学</p> <p>(今治市のタオル・松山市のポリエステル等)</p> <p>《着方》《被服の消費》</p> <p>3 着方を考える</p> <p>・快適な被服内気候がわかる</p> <p>発汗・温度・湿度</p> <p>・着装に伴う健康障害</p> <p>体形をしめつける下着による健康障害</p> <p>体形にあった着装</p> <p>・高齢者・幼児の被服</p> <p>難燃繊維</p> <p>・制服と衛生的な着方</p> <p>・時代背景と世界の服飾の関係をj知る</p> <p>・社会的・文化的着方を考える</p> <p>・TPOに応じた着方を考える</p> <p>《被服製作・染色》</p> <p>4 リラックスウェア(無地)の製作</p> <p>・型紙を使う</p> <p>・ミシン縫い含</p> <p>・市販品との比較</p> <p>・折れ針・切れ端の処理</p> <p>・リラックスウェアの草木染め</p> <p>《被服管理》</p> <p>5 衣類・ふとんの保管、防かび、防虫の仕方がわかる</p> <p>・保管方法、防湿と乾燥方法、防かび剤・防虫剤</p> <p>《被服の消費》</p> <p>6 被服の情報</p> <p>・衣料問題</p> <p>衣料障害、防虫剤による環境汚染、着火事故、輸入衣料、クリーニング、洗剤事故など</p> <p>・衣料の選択に関する情報</p> <p>手入れ、価格</p> <p>・洗剤事故を知る</p> <p>7 着方から被服計画をたてる</p> <p>季節・頻度・価格</p> <p>・無駄な物を買わない</p> <p>・ごみ・再利用・再生</p>

表5. 中学校【住居】領域

旧 学習指導要領	新 学習指導要領	新学習指導要領の解説 ^{6)・10)}	考 察	学習内容構想 (20 時数)
<p>1 目標 住空間の計画及び室内環境と設備に関する学習を通して、快適な住まい方について理解させ、住空間を適切に活用する能力を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 住空間の計画について、次の事項を指導する。 ア 調理、食事、団らんなどのための空間の機能を知ること。 イ 調理、食事、団らんなどに必要な家具の使いやすい形状と寸法及びそれらの選び方を考えること。 ウ 調理、食事、団らんなどのための空間についての構想を略平面図や断面図で図示し、立体的に検討することができること。 エ 目的に応じた収納を考えること。</p> <p>(2) 室内の環境と設備について、次の事項を指導する。 ア 室内の作業に適した採光と照明の仕方を知ること。 イ 室内の温度、湿度及び気流の調節並びに騒音防止の仕方を知ること。 ウ 室内の給排水の設備器具の取扱いができること。 エ 室内を快適にするために、家具、床、壁面などの手入れができること。</p> <p>(3) 家庭生活における水と熱源の合理的な使い方考えさせる。</p>	<p>1 目標 住空間の計画及び室内環境と設備に関する学習を通して、快適な住まい方について理解させ、住空間を適切に活用する能力を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 家族の生活と住居との関連及び快適な住まい方について理解させる。</p> <p>(2) 住空間の計画について、次の事項を指導する。 ア 食事、団らんのための空間の機能を知ること。 イ 食事、団らんなどに必要な家具の使いやすい形状と寸法を知り、その配置及び空間の使い方の工夫ができること。</p> <p>(3) 室内環境と設備について、次の事項を指導する。 ア 安全で衛生的な室内の整備の工夫ができること。 イ 室内の空気調節及び騒音防止の仕方を知り、住まい方の工夫ができること。</p> <p>(4) 家庭生活における資源の適切な使い方と廃棄物の処理について考えさせる。</p>	<p>1 目標 住居の役割、家族の共通空間における住まい方と住空間構成の計画（人と家具との関係等）、安全・衛生面からの室内環境・設備の整え方、家族生活と環境の関連（資源の適切な使い方と処理）について理解させ、住空間を住みよくしようとする能力を養う さまざまな家族の構成や暮らし、生徒の居住する地域の実態や環境条件を考慮した快適な住まい方を理解させる</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 家族の生活と快適な住まい方 家族の構成や家族の暮らしに対する考え方により、住まい方が異なること、住居が家族の心のつながりや精神安定の場であることの理解 生活行為と心理面における住まいの役割を理解させる（モデル家族を想定した題材やロールプレイング） 住空間の構成や生活様式・起居形式は、気候風土や文化など地域の特性が反映されて異なることの理解 いす座・床座の特徴と家族の生活の仕方との関連の理解 住居の変遷や各地の住居の視覚物を見せる 住居は自然環境や社会環境により異なるが、基本的な住居の機能は共通していることに気づかせる</p> <p>(2) 住空間の計画 家族の暮らしや生活要求（団らんとプライバシー、就寝と食事の関連など）と住空間の構成の条件との関連を考えさせる 共同の生活空間（食事・団らん）を取り上げ、部屋の機能を理解させ、家族が集まりやすい場所に配置する必要性、そこに必要な家具の使いやすい形状や寸法を知らせ、人と家具の関わり合いを中心にして、快適な部屋を構成できるようにする 住空間の計画の学習は、広さ・高さなどを基礎とした空間の使い方を中心に上げる 生活行為（10種類、生徒が家族によく相談するか否かでもよい）と住空間を、私的なもの・家族共通のもの・両方に属するものに分類し、それらと家族の視線の度合いを比較させる 私的な空間とは、自分以外の者との触れ合いをするか否かを選ぶことができる場で、逃避・遮断の場ではないことを理解させ、プライバシーと団らは共存するものであることに気づかせる 起居様式・暮らしや動線を考慮して、住空間の形状・規模の構想を練り、適当な縮尺で建築平面表示記号や家具表示記号を用い、略平面図で表示できるようにする 建築計画としての住宅設計の水準をめざすものではなく、快適な住まい方の学習であることに留意する 人の動きと家具のゆとり寸法の関係や動線の構想は、教室などで実際に行なったり、平面図で具体的に考えさせる 家具の形状・寸法・配置が家族全員の人体寸法と動作寸法に適合しているか検討させる リビングダイニングとそこで使う家具の模型を用いて、空間の機能を考えさせる 動線・家具のまわりのゆとり、窓や出入り口の確保等について検討させ、改善点に気づかせる 工作用紙・厚紙などの模型、視覚教材などにより、具体的に構想させる（20分の1または50分の1の適切な縮尺、家具や空間の作図指導、方眼紙に人体や家具の色縮尺図の切り取り配置） 建築平面表示記号や家具表示記号でかかれた住居の間取り図から、さまざまな家族の住まい方を読み取れるようにする 身長計、座高計、家具模型、住居模型、略平面図、断面図、人体縮尺模型図</p> <p>(3) 室内環境と整備 小学校第6学年【家】領域で「健康的で使いやすい住まい」を扱うので、ここでは安全を中心に事故原因に着目する（2）と関連させる 高齢者や幼児に多い家庭内事故の種類と原因、地震に対する家具の扱い方等（寸法や配置）について知らせ、安全な住まい方を考えさせる ガスの種類とその特性、ガスによる事故の原因と実態を調べさせる ガス器具・栓・ゴム管の仕組みと使い方、安全な取り扱い方を知らせる 汚れの原因とその組成、家具・床・壁面に使われている材料を調べさせる それぞれの材質と汚れにあった清掃用具・洗剤・ワックスなどを知らせ、床壁面・設備などの清掃をさせる 室内の損傷した部分の簡単な修理方法や、室内の給排水設備の簡単な保守点検方法を知らせる 衛生的な住まい方の工夫（かびやダニの予防・除去は室内の空気調節と関連させる）、暖冷房設備などの手入れができるようにする 空気汚染度・温湿度・気流・騒音などの簡単な環境測定（機器はできるだけ教師手作りのものを用い、例えば住空間模型の中に煙を流して、開口部の大きさ・位置による空気の流れの違いの実験）を行う 最高最低温度計、乾湿温度計、簡易検知管ガス検知器、風速計、騒音計、清掃用剤・用具、給排水器具標本、カット水栓標本、ガス栓標本、しゃ音・吸音の実験装置 空気や汚れの原因を調べさせる 換気や通風（窓・換気口・カーテン等）により、室内の空気の清浄を工夫できるようにする 騒音の種類を知り、防止の工夫をさせる 近隣や地域単位の騒音防止まで考えさせる 住宅様式（集合住宅と一戸建住宅等）による違い、地域性を留意させる</p> <p>(4) 資源の適切な使い方と廃棄物の処理 資源（水・熱源）の重要性（水資源の確保供給がすでに困難な状況になっていること、エネルギー資源の大部分を海外から輸入していること）、排水やごみの環境に与える影響（生活排水が水質汚染源になっていること等）を、消費者の立場から理解させる 家庭での水やエネルギーの種類・使用量と、生活様式・使用設備・習慣などとの関連を理解させる（一人一日の日常生活での使用水量を調べさせる 水量を節約して使用し、しかも目的が果たせる使い方を考えさせ実測させる） 使い捨て、資源の無駄使い、環境汚染、ごみの多様化・多量化・処理の困難性を理解させ、省資源や環境の観点から、ごみの減量化・分別収集・リサイクルを考えさせる 家庭から出されるごみや不用品の量や処理の仕方を調べさせる 地域により、ごみの収集方式や資源ごみの回収方式・汚水の処理方式が異なるので、実態に即し指導する 廃棄物の適切な処理ができるようにさせる ＜社会・公民＞との関連を考慮する</p>	<p>考 察</p> <p>(1) 快適な住まい方は生活空間・管理・安全性・環境の四分野から考えるべきである ・しばしば、快適な住まい方ではプライバシーの保護を焦点化してしまい共有空間の住まい方を見落としがちであるので、団らんとプライバシーをあわせて取り上げる</p> <p>・【保】《幼児の環境》と関連 10) 幼児の環境を知る ・幼児の事故を知る</p> <p>・衛生的な住空間を営むために、日照・採光・換気・防湿・しゃ音・冷暖房・照明・浄化槽を考えさせる 資源としての考えも入れる ・＜技術＞で環境測定機器（空気汚染、気流、騒音、震動等）を製作し、＜家庭＞で測定する ・適切で計画的な住居の管理によって、維持管理費や住居費の差がでることを知る</p> <p>・【家】《生活と環境》（総合授業）と関連させる 2) お互いに住みよい環境をつくることのできる ・住居 清潔保持の方法 ごみ処理と環境など住環境の維持 ・洗浄 ・水・空気・土・化学合成品 ・環境・資源の問題を総合的に考える ・＜社会・公民＞と関連させる ○ 資源やエネルギーの有効な開発・利用</p> <p>・＜保健体育＞と関連させる ○ 温度・湿度・明るさ・騒音の快適範囲 ○ CO₂・COの許容濃度</p> <p>・【家】《生活と経済》と関連 5) 生活情報 ・生活情報誌を調べる ・情報施設を調べる</p>	<p>学習内容構想 (20 時数)</p> <p>—安全な地域の自然環境—</p> <p>《生活と住空間》《住宅問題と住居計画》</p> <p>1 住まいと家族生活 ・日本の住居の変遷と風土¹⁵⁾ ・日本の暮らしと住まい 家族構成の違い・暮らし方にあった空間構成を知る 文化の違いと住生活様式（国際比較） 床座と椅子座、和風・洋風 ・各室の機能 寝食分離→性別就寝→個室 ・プライバシーと団らんを考える ライフサイクルと生活空間 子供部屋・老人部屋・団らんの空間 ・住まい方のルール プライバシーを考える 近隣への配慮など住環境の維持 地域の環境作りに協力できる</p> <p>2 事故・災害 ・家庭内事故防止（高齢者、幼児） ・災害防止 立地条件、環境整備</p> <p>《住居管理と自然環境》</p> <p>3 材質・汚染・資源 ・設備の寿命・改修・改善を知る ・手入れ・管理の方法を知る 汚れと材質、用剤、家具（タンス・食器棚）・建築材の薬剤処理 ・空気・水・土の汚染 家庭からの廃棄物と環境を考える ・資源の利用・処理を考える 水・電気・ガス</p> <p>4 住環境（自然環境） ・室内気候 ・安全（地震・火災・台風・除雪対策）</p> <p>《住宅問題と住居計画》《生活と住空間》</p> <p>5 住居水準 ・都市と地方の住宅問題、高層階の住まい ・公共施設</p> <p>6 住空間の計画 ・平面計画、設計 基本的な寸法を知る 各室の機能と配置（模型利用） 設備の配置と動線 収納スペース、家具の選び方、インテリア</p> <p>7 住居計画 ・住まいの法律……日照権 ・住まいの情報を調べる ・住まいの費用を知る（家賃・ローン） ・居住地域の環境 ・高齢者と住宅</p>